

令和6年度深谷市公金管理計画

[令和6年3月19日市長決裁]

1 計画策定にあたっての考え方

国内の金利状況は、平成28年9月に日本銀行が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」策を導入して以降、短期金利はマイナス圏、長期金利及び預金金利は低い水準で推移しています。加えて、資源価格の高騰、物価の上昇など、経済を巡る不確実性はきわめて高く、今年度も当面は低い水準での推移が続く可能性があると考えられます。

このような状況に柔軟に対応するため、今年度の公金管理にあっては、市公金管理方針に基づき、景気の動向や金融政策の先行きに特段の注意を払いつつ、安全性及び流動性を最も重視した上で、効率的な保管・運用を目指します。

2 歳計現金

(1) 保管・運用基準

支払準備金及び運用可能資金は、市公金管理方針に準じて保管・運用します。

○支払準備金は、普通預金で保管

○運用可能資金は、定期預金を基本として、一会計年度内で可能な限り長い期間保管

(2) 保管・運用計画

市公金管理方針に基づき、金融商品を選択します。本年度の計画は次のとおりです。

(単位：億円)

区 分		金 額	割 合
支払準備金	普通預金	60 (60)	100.0%
運用可能資金	定期預金	0 (20)	0.0%
合 計		60 (80)	100.0%

() は昨年度計画

※令和5年4月1日から令和5年12月31日までの間における一日あたりの平均残高、約60億円を基に算出

3 歳計外現金

(1) 保管・運用基準

支払準備金及び運用可能資金は、市公金管理方針に準じて保管・運用します。

○支払準備金は、普通預金で保管

○運用可能資金は、定期預金を基本として、可能な限り長い期間保管

(2) 保管・運用計画

市公金管理方針に基づき、金融商品を選択します。本年度の計画は次のとおりです。

(単位：億円)

区 分		金 額	割 合
支払準備金	普通預金	3.2 (3.2)	29.1%
運用可能資金	定期預金	7.8 (7.8)	70.9%
合 計		11.0 (11.0)	100.0%

() は昨年度計画

※令和5年4月1日から令和5年12月31日までの間における一日あたりの平均残高、約11億円を基に算出

4 基金

(1) 保管・運用基準

預金及び債券は、市公金管理方針に準じて保管します。なお、債券については一括運用により効率的に運用します。

(2) 保管・運用計画

市公金管理方針に基づき、金融商品を選択します。本年度の計画は次のとおりです。

(単位：億円)

区 分	金 額			割 合
	総額	内 訳		
預 金	180	普通預金	100(90)	35.7%
		定期預金	80(70)	28.6%
債 券	100	国債等	100(90)	35.7%
合 計			280(250)	100.0%

() は昨年度計画

※令和5年度末残高見込み額、約280億円を基に算出

市財政事情による歳計現金及び基金等資金の大幅な増減、経済や金融市場の動向等の変動により、公金管理に係る事項に大きな変更が生じたときには、この計画の内容を見直す場合があります。